



## 請願第6号

2025年 4月 4日

### 鶴川第三小学校・鶴川第四小学校の統合を1年延期を求める請願

町田市教育委員会教育長 様

住 所

連絡先

氏 名

#### (請願の要旨)

2026年4月予定の統合を1年遅らせることを求めます。

#### (請願の理由)

2026年4月に予定されている鶴川第三小学校、鶴川第四小学校の統合で卵が、真光寺地域から2キロの通学になる児童が想定されていますが、路線バスの減便、交通渋滞が常態化している通学時間の安全の確保はいまだにできていません。本来であれば、1年前には、安心して臨めるように計画を行うことが、保護者、児童にとって重要です。現在、全国的にも小学校低学年での不登校児童数が増加。保護者ともに働く世帯も毎年伸びています。学校に安心して通えることは、働く親たちにとって最も大事なことでないでしょうか。遠くなることで、不安だけではなく、実際に事故などのリスクも高まります。まずは通学不安の解消が、この計画を前向きに進めるうえでも必要な措置ではないでしょうか。鶴川団地中央交差点から鶴川団地中央通りに上がって距離にして50メートルのところに信号機のない交差点があります。この道を境に学区が分かれていましたが、統合されるということは、この辺りを行き来する頻度が増加します。大人でも危ないと思うこういった交差点があり、いくらここを通らないように指導しても、お休みの際に家族で渡るなど当たり前の経験ができると子どもたちはいくらでも利用することは起こります。また、指導員などをそこに配置してもらおうとしても、時間帯、夏休みなどの学童利用の際にはどうなるのか、との心配もあがります。こういったことからしても、問題がクリアになることが保護者、市民ともに受け入れられる順序が必要ではないでしょうか。

2026年の統合建設に伴う鶴川四小児童の通学距離問題、その後には、鶴川第三小学校近隣エリアの児童は、鶴川四小位置に通学、もしくは鶴川二小の統合建て替えにより鶴川東小学校に転入となる学年がでできます。6年間の小学校生活で、2回も学校環境、お友だち環境が大きく変わるとするのは、大人が考えても、とても大変なことです。先に、鶴川二小に通うとしても、目の前に学校があるのにもかかわらず、隣の小学校に通う。そのことで、学童、お友だち環境が影響されています。ほかの選択肢としては、大蔵小学校に通うことも出てきています。このように、いろんな選択肢を駆使して、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう保護者も必死に考えています。このような情報とていねいな対応をひとりひとりに行うことは、学校任せでは到底できなく、時間がかかることです。

そしてなにより、鶴川の統合時の想定クラス数は24クラス、これは町田市の独自基準18から24クラスとする町田市独自基準中の最高クラス数になります。統廃合されることで教員の数は減り、教員の負担、また目が行き届かないことによる児童の不安も懸念されます。教育委員会の発言では、35人いない

であればその学級人数で教師の目が行き届く、行き届かないということはない、というご発言があったと思いますが、物理的にそうだと納得できる根拠はありますか。

今まで何度もお願いした際に 2021 年入学者は、この統合時、6 年生です。最終学年となる 1 年のクラス人数が鶴三小、鶴四小共に増える。また、町田市の独自基準最高クラス数 4 クラスを超えています。2026 年統合時の入学者 1 年生は、34 人学級です。3 人増えれば、4 クラスとなり、25 学級の統合学校になります。

| 2026年度 |      | 鶴川第三小学校、鶴川第四小学校統合時 児童推計 |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     |    |     | 特別支援学級 |    |  |
|--------|------|-------------------------|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|--------|----|--|
| 学校名    |      | 1年                      |     | 2年 |     | 3年 |     | 4年 |     | 5年 |     | 6年 |     | 合計 | 知的  | 情緒     | 合計 |  |
| ①      | 鶴川三小 | 児童数                     | 48  | 24 | 54  | 27 | 51  | 26 | 50  | 25 | 60  | 30 | 75  | 25 | 337 |        |    |  |
|        |      | 学級数                     | 2   |    | 2   |    | 2   |    | 2   |    | 2   |    | 3   |    | 13  |        |    |  |
| ②      | 鶴川四小 | 児童数                     | 54  | 27 | 70  | 35 | 65  | 33 | 60  | 30 | 68  | 23 | 82  | 28 | 399 |        |    |  |
|        |      | 学級数                     | 2   |    | 2   |    | 2   |    | 2   |    | 3   |    | 3   |    | 14  | 3      | 3  |  |
| ③      | ①+②  | 児童数                     | 102 | 34 | 124 | 31 | 116 | 29 | 110 | 28 | 128 | 32 | 157 | 32 | 737 |        |    |  |
|        |      | 学級数                     | 3   |    | 4   |    | 4   |    | 4   |    | 4   |    | 5   |    | 24  |        |    |  |

そして、鶴川三小の回収に伴いできる普通学級は 24 クラスです。物理的キャパもこれだけギリギリの状況で進める価値があるのでしょうか。

先日、この統合の〈優先順位を決定する上での指針〉を読ませていただきました。

○2030 年度までに、小学校であれば 12 学級未満、中学校であれば 9 学級未満となる学校の統合及び統合に伴う建替え及び改修を優先し、それ以外の学校統合を予定している地区及び統合を伴わない建替校（新独参校）の計画は延期する。

○単学級化しないまでも、2030 年度の時点で統合対象校双方が小規模化し、今後も児童・生徒数が減少していくことが見込まれる地域を優先する。

この 2 点の条件にどちらの学校も合致しません。そうであるのにも関わらず、進めるのであれば、十分な児童、保護者への配慮が必要ではないですか。

文教委員会において、このことに対して教育委員会担当は、「一過性の状況は生まれるが、その後は落ち着いていく・・・」という答弁をされました。こういった発言は、今の児童に負担を押してけます、といった内容になりませんか。この発言をそのままにしている教育委員会に対して信頼が得られるとお思いでしょうか。

子どもたちの教育に責任ある教育委員会の職務と照らし合わせて、お考えいただきたいと思います。

2026 年度の統合は延期を求めます。